第２回屋久島町多目的交流センター整備庁内検討委員会
議事要旨

日時：令和５年９月26日（火）　13:30～15:30
場所：屋久島町役場本庁舎　やくしまホール（議場）

１　協議事項
（１）検討委員会設置要綱の改正について
（２）関係課ニーズ調査について（報告）
（３）モデルプランについて（協議）
（４）PFI可能性調査のアンケート調査について（報告）
（５）今後のスケジュールについて

２　協議資料
（１）資料１：(表面）次第　（裏面）今後のスケジュール
（２）資料２：都市再生整備計画事業（防災・安全交付金）に関する資料
（３）資料３：多目的交流センターの基本計画について
（４）資料４：PFI等導入可能性調査のアンケート調査結果について

３　協議内容
（１）モデルプラン及びアンケート調査について
・キッズルームには、木育環境を整備したいと考えており、担当課と共に木育インストラクターに話を聞くなど検討を進めている。
・ニーズ調査でホール（文化施設）として800～1,000人程度の収容人数がほしいという要望があったため、最大1,000人の収容人数を計画しているが、大規模な催しものは1回/年程度であるのに、そこまで整備する必要があるのかという議論は必要だと考える。現施設の収容人数は何人であるのか。
⇒現施設の収容人数は500人である。
⇒現在の収容人数で困っている場面を見たことがない。スタッキングで半分（500席）の座席を準備する計画であるが、現施設と同等の規模であれば必要ないことになる。ホール規模がそこまで必要か疑問である。
⇒スポーツ利用を想定しての規模設定であり、スタッキングチェアと移動座席を併せて1,000人が収容できる規模としている。そのため、ホールだけで今回の規模が決まっているわけではない。
・現実的には現在の規模は難しい可能性もあるため、費用との兼ね合いで縮小する部分は検討しておいた方がいいのではないか。
⇒移動席の割合をこれ以上増やすことは天井高さの設定上難しいため、スタッキングチェアの整備数を想定より減らすなどが考えられる。
・防災の観点から、津波被害が発生した場合、想定される避難者全員を収容できる広さも考慮してほしい。

⇒現状の宮之浦体育館が約1,000㎡で約610人程度の収容人数であり、今回計画する多目的交流センターはそれ以上の規模となる予定であるため、少なくとも現状以上は収容できると考えている。

⇒宮之浦体育館の収容人数の算定は座る場合の必要面積で寝転がることも考慮した必要面積となると、収容人数は変わってくると思う。また、避難者を収容するのであれば、2階への物資の搬出入も考慮して2階に直接車両が近づけるようスロープなどを整備する必要があるのではないか。

⇒収容人数の課題については、他の民間施設も避難者受け入れに対応できるよう検討していると聞いているので、他施設との役割分担も考慮して検討する。

・前回の会議でも提案したが、やはりテニスコートは４面必要であるのか。

⇒屋久島高校やスポーツクラブが利用しているため、４面必要である。

⇒１面なくなれば配置計画がしやすくなると考える。敷地面積に余裕がないため現状の形態で考えられているが、テニスコート部分を活用すれば別の案も考えられる。

⇒将来的に小・中学校を高台移転する可能性を考慮すると、テニスコートが足りなくなる可能性もあるため、現時点でテニスコートを縮小するという判断は難しい。

・相撲場は必要であるのか。

⇒関係者にも話を聞いて判断したい。

・現在の体育館の解体時期はいつか。

⇒多目的交流センター完成後に解体する予定。

⇒現在計画している規模では工事中に駐車場が施工ヤードとなり、現実的には使用できないのではないか。そうであれば、先に宮之浦体育館を解体した方が配置計画の自由度は上がるのではないか。

⇒町民の負担軽減のため、現在の体育館は使用しながら多目的交流センターの建設ができるように動線整理など、施工計画は考えていきたい。大会などは安房体育館で開催するなど対応していきたい。

・3,100㎡という規模は費用的な面で上限となっているのか。

⇒上限というものは考えてはいないが、人口減少による財源不足が心配される中、町民への負担を少しでも抑えるため規模が過大とならないように計画している。

・現在のところ１階に配置されている防災機能は地下に計画すべきではないか。現在屋久島町には地下に避難できる場所がない。現実的には費用が合わないと想定できるが、検討はしてもよいのではないか。

・防災備蓄倉庫は調理室と場所を入れ替え、外部から搬出・搬入をできるようにした方がよいのではないか。

⇒モデルプランでも廊下の前に車を横付けしての搬出入は可能である。また、ピロティであるため、雨でも濡れない。廊下に関してプランを見直し、直接車路から搬出入が出来るようにする。

・図書室について、現在の180㎡から30㎡増加した210㎡で計画しているが、問題ないか。

⇒問題ない。

・フットサルはレイアウトに組み入れた方がよいか。

⇒できれば入れてほしい。

・バドミントンのコート同士の離隔が２ｍしかないのは問題ないか。バドミントンに限らずコートの寸法だけでなく、コート外の離隔距離も確保しておかないと怪我をする可能性ある。各スポーツの規程上の最小寸法ぐらいは必要ではないか。

⇒県外の施設を参考にレイアウトしたが、モデルプランではもう少し離隔距離を取れる計画ができそうであるため、再度検討する。

・９人制バレーボールコートが２面取れないのであれば、１面のみコートラインを引く必要はないのではないか。

・３、４施設をバンドリングする想定の民活導入は現実的ではなく、多目的交流センターのみで民活導入を考えることになると思う。そうした場合の運営について、指定管理制度を利用するのか、自治体が運営するのかを考える必要がある。仮に民間資金での運営を委託するのであれば、事業として収益が出る施設の在り方を考える必要があり、そうした場合、現在議論している想定の施設は両立できないのでないか。その方向性をまず決めないと、現在議論している内容には無理が出てくる。

⇒民間の資金で運営（財政負担の低減）をするのであれば、収益施設など民間が運営しやすい施設として考える必要がある。どちらの方向性でも検討は可能であるが、現在基本計画を固めてから可能性調査をするスケジュールであるため、可能性調査後に民間での運営するために再度計画をやり直すのは現実的ではない。そのため、民間での独立採算での運営（あるいはできるだけ指定管理料を低減）か、自治体の費用負担での運営かについては方向性を決めておく必要がある。

・PPPにしても先程のアンケート結果から見ても官民連携の可能性としてはどれくらいあるのか。

⇒今回のアンケートは前提条件をあまり出せていないため、現在どちらでもないと回答した企業にどれだけ興味をもってもらうかにもよる。また、民間の責任区分をどこまで考えるかにもよる。貸館がメインとなると、PPP/PFIと言わずに入札の方がメリットがある可能性もある。

・町民の検討委員会は何を検討してもらうのか。

⇒基本計画のたたき台を示し、機能や規模について検討してもらう予定である。また、PPP/PFIについても概要を説明し、従来方式とは異なる整備方法であることを説明しようと考えている。

・県のコンベンションセンターに関するPPP/PFIはデザインではなく、性能発注であるため、見栄えは重視されないという懸念があげられている。

⇒先行事例を見ても、デザイン性については、PPP/PFI事業の課題という認識はない。評価軸と評価委員に関して配慮して募集資料を作成すれば問題にはならないと考える。

・このまま町民検討委員会に臨むと何も決まらない会議となってしまう懸念がある。

・キッズルームを計画するとなれば、そこまでの規模が必要であるのかとなるので、防災拠点として必要な機能であると位置づける必要があるのではないか。避難者の中で移動が困難な人などに対応するためのスペースとしてキッズルームを整備する位置づけで考える必要がある。

・ステージには舞台装置も出てくると思うので、日常的なスポーツの使用時に緞帳で区切るだけでは備品の管理も含めてリスクがある。大会など不特定多数の人間がスポーツで出入りする際にはしっかりと区切れるように計画する必要があると思う。

（２）今後のスケジュールについて

・10月26日に町民検討委員会を開催し、その後11月に第3回庁内検討委員会、12月に第２回町民検討委員会を行っていく予定である。

・地質調査については建物の概ねの位置が確定した段階で発注する予定である。